

令和8年度玉丘古墳発掘調査現地説明会

資　料

加西市教育委員会生涯学習課
令和8年11月3日（火・祝）

1．玉丘古墳の概要

玉丘古墳は古墳時代中期前葉（４世紀末～５世紀初頭）に造られたと考えられる大きさ 109m の前方後円墳です。墳丘は３段で造られており、盗掘を受けた後円部では、「王者の棺」とも呼ばれる長持形石棺が見つかっています。周辺には大小さまざまな形の古墳が造られており、それらも含め、「玉丘古墳群」として国の史跡に指定されています。

2．調査の目的と成果

玉丘古墳の東くびれ部付近には、墳丘外側に張り出した地形が２ヶ所あります。北側のものはこれまでの調査で、古墳の儀礼空間である「造り出し」であるとわかっていましたが、南側のものについては、後世に造り変えられた地形であると考えられてきました。

しかし、令和６年度に周濠の水を抜いた際、後世の改変とされていた南張り出しの下部で、円筒埴輪が立っているのを発見しました。これにより、この部分が古墳本来に設けられた空間の一部である可能性が高まりました。これを受け、加西市教育委員会では、史跡の適切な保護と遺構の内容解明を目的として令和８年 10 月１日から発掘調査を開始しました。

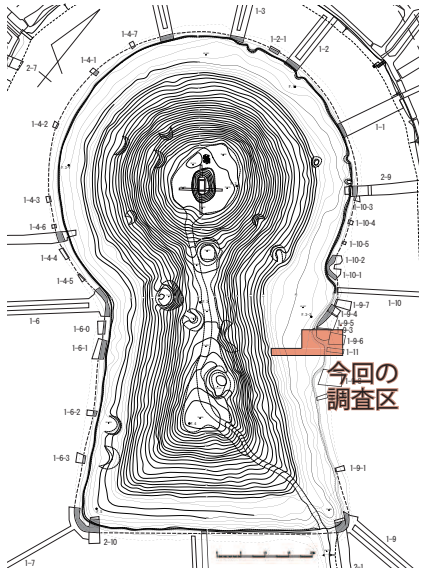


図１　玉丘古墳の形態と調査区の位置

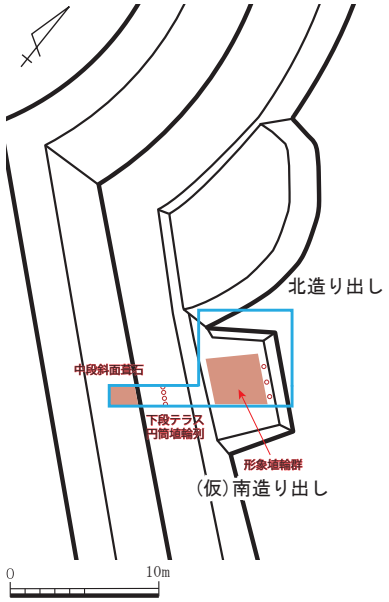


図２　調査成果の概略平面図

調査の結果、南張り出し部の下層で大量の埴輪が出土しました。その状況から、この部分が新しい時代の改変ではなく、古墳に設けられた空間であることが判明しました。その結果、玉丘古墳ではくびれ部の片側に造り出しが２つ並ぶ特徴的な形態をしていたことになります。この南造り出し（仮称）の上には、奇跡的におびただしい数の埴輪が残されており、当時の儀礼空間の様子を復元することが可能な極めて重要な成果です。埴輪は、家、甲冑、船、囲、水鳥、動物の足（？）など、バラエティ豊かな構成となっています。

他にも、墳丘下段テラスの埴輪列や、中段斜面の葺石、北造り出しの斜面葺石といった他の部分も、良好な保存状態で発見し、いくつもの大きな成果がありました。

玉丘古墳発掘調査
見どころ MAP

今回の調査では、斜面の葺石、テラスの埴輪列、造り出しなど、大きな発見がありました。墳丘本体と調査区をあわせて眺めて、約 1600 年前の壮大な玉丘古墳を想像してみてください！

①葺石（ふきいし）

墳丘の中段斜面の葺石を発見しました。最も下に大きめの石（基底石）を横向きに並べ、その上には小さめの石を葺いています。これらの石は割石で、近くの山の凝灰岩を使っています。

②埴輪列

墳丘下段テラスに並べられた円筒埴輪列です。今回の調査区では４本の円筒埴輪が見つかり、埴輪の底部を埋めて設置しています。真ん中の円筒埴輪の近くでは、壺形埴輪の破片がひっくり返っており、一部の円筒埴輪の上に載せていたと考えられます。



③囲形埴輪（かこいがた）

家などを囲う塀のようなものをかたどった埴輪で、身体を清める特殊な空間を囲っていると考えられます。塀の上部にはギザギザの突起が付いており、内部の空間を守る魔除けの意味があると推測されています。



④家形埴輪

切妻形屋根の家が出土しました。屋根の先端には破風板という飾り板を取りつけていることが分かります。この家の他にも数棟の家があったと考えられます。



⑤動物形埴輪？

動物形埴輪の足かも…？といっている埴輪です。足の先端にふくらみを持つ表現があるため、動物の中でも馬の可能性が高いと考えています。



⑥水鳥形埴輪

水鳥形埴輪の首から頭にかけてが出土しました。顔には目やくちばしの表現があります。渡り鳥としての水鳥が被葬者の魂を他界へ導くとも考えられています。

⑦北造り出しの葺石（ふきいし）

北造り出しの斜面の葺石で、一番下には基底石と考えられる大きめの石が並んで据えられています。葺石上部には、造り出し上に置かれていたと思われる円筒埴輪が転がり落ちています。

⑧船形埴輪

２つの足のような基台部に、大きな船を乗せた埴輪と考えられます。透かし穴を持つ、へさきの破片も出土しました。被葬者を他界へ送り出す乗り物と考えられます。

